DH座談会

ずっと成長を続けられる。歯科衛生士で本当によかった！

今、歯科衛生士の活躍の場は
どんどん広がってきています。
同時に、予防のプロとして世間からも
期待を集める存在となってきました。
ではこれから先、歯科衛生士が
もっと輝くために
何が必要なのでしょうか？
今回、現場で働く4名の歯科衛生士に
集まっていただき、それぞれの体験や
仕事への想いをうかがいました。
世代が違うからこそ、
歯科衛生士という職業の
いろいろな側面が見えてきた座談会。
話を進めるなかで、
歯科衛生士の未来像が浮かんできました！

DH's Conversation

GO!

今寺 麻友さん(34)
星友会星野歯科駒沢クリニック
臨床歴 14年

×

岡部 葉子さん(45)
デンタルデザインクリニック
臨床歴 22年

×

山口 千代子さん(57)
山口歯科医院
臨床歴 30年

×

白井 初貴(はづき)さん(28)
I DENTAL CLINIC
臨床歴 5年

DH 座談会

「私は予防のプロとしてやっていきたい！」行動を起こすことが、始まりです。

〝歯医者のお姉さん〟から〝歯科衛生士〟というプロフェッショナルへ

岡部さん（以下敬称略）：最近、歯科衛生士の認知度が上がってきたと思いませんか？私たちが20～30代の頃は、歯科衛生士といえば〝歯医者のお姉さん〟というイメージでしたよね。友達に話しても「あの助手の人でしょ」なんてよく言われていました。だけど最近は、「衛生士さんなんだ！」っていう言葉が相手から出てきますよ。

山口さん（以下敬称略）：院内での立場も変わりましたもんね。ドクターの意識が10年前と比べて全然違います。はじめは助手のような感じで接してきていたのが、今ではプロとして責任を持って働きなさいと言われますから。

今寺さん（以下敬称略）：患者さんが予防を価値あるものとして認識し始めたから、というのもありますよね。これから先〝健康な人の将来〟に焦点を当てないと、歯科医院自体生き残れなくなるというか。だからこそ、予防のプロである歯科衛生士が必要とされているのではないでしょうか。

白井さん（以下敬称略）：そういった期待に応えるためにも、自分の仕事をしっかりとこなさなきゃと思います。もちろん、ドクターの仕事も理解しながら。お互いが各自の分野で最大限力を発揮できるようになれば、患者さんにとってもすごくいいことですよね。私は今サージテルを使っているのですが、それもドクターに信頼されて患者さんを任されたいからという思いがあります。

岡部：それこそ拡大鏡を歯科衛生士が使うなんて、昔はなかったじゃないですか。だから就職してすぐに使える若い人がうらやましくて仕方がないけど、今ではあたり前ですからね。

そう考えると、歯科衛生士が専門職として立場を確立するにつれて、業務の内容も変化していると思います。PMTCという概念も広まって、できることがどんどん増えていますし。もちろんその分、責任も重大になってきましたけれど。

山口：確かに、責任はより重くなっていますよね。患者さんに対してもドクターに対しても、求められていることにはしっかり応えていきたいです。

「予防のプロとしてやっていきたい！」この熱意が医院全体を動かします

岡部：どうして、ここまでドクターの考え方が変わってきたのでしょうか。

山口：私は自分からアピールしました！きっかけは、ブリギッタ先生のセミナーだったんです。そこでPMTCの重要性を知って、患者さんにその大切さを伝えていくことが自分の役目だと感じました。それから、かなりの熱意を持って「私は予防のプロとしてやっていきたい！」と院長に話して。その熱意が伝わったようで、徐々に医院のシステムを変えてくれました。

今寺：当院も同じです。ある講演会に歯科衛生士全員で出て、今後どれだけ予防歯科が必要とされていくのかを知りました。それからは目の色を変えて、予防歯科をもっとやっていきたいって院長に伝えたんです。もともと治療中心の医院だったので簡単にはいきませんでした。もう何回もバトルですよ（笑）。一般の方の意識に近い助手さんや受付の人にも意見を聞いて、誰もが予防は大事だと思っていることを訴えました。そういったことを2年繰り返して、ようやく半年前から変わったんです。今は、歯科衛生士が自分の部屋を持って、初期治療とメインテナンスに集中できる体制が整ってきました。

白井：私の医院では、院長と一緒に勉強会へ参加したり、治療に関して意見を聞いてくれます。チームの一員として必要とされているという意識が自分のなかでも高まっていくんです。私が変わることで、歯科医院全体がよくなるんだって実感しています。

岡部：予防歯科に力を入れ始めると、医院が取り入れるシステムが大きく変わりますよね。当院も治療だけではなく、細菌のコントロールや全身疾患のことにも目を向けるようになっています。

山口：やっぱり、私たちが行動を起こすことが大事。そこからが始まりなんですよね。

歯科衛生士が成長し続ければ患者さんも変わっていきます

今寺：最近は患者さんのなかでも、予防が大事という意識が高まっていますよね。ただ、どうやって歯を守るかに関しては情報を持っていない方がほとんどです。

多くの方が、医院のホームページをしっかり見て来られるじゃないですか。根管治療について調べてきて、「前の歯医者さんはマイクロスコープ使ってないからここに来たんだ」とか。治療に関していえば、〝今の自分に必要なのはこれ〟っていう理解がかなりあるのがわかります。予防の方法に関しても、同じくら

患者さんも自分も成長し続けられる。だからメインテナンスって楽しい！

い関心を持っていただけたらいいですよね。

岡部：確かに。でも、私たちがちゃんと予防に関する知識をわかりやすく伝えていけば、確実に変わっていきますよ。リスク検査の必要性や、歯周病が全身疾患に関係あるという話をするのも、その方法の一つです。

白井：そう考えると、歯科衛生士の知っておかなければいけないことってすごく幅広いですね。口腔内のこと、全身のこと。その多くの情報を、メインテナンスという限られた時間のなかでどう伝えていいのか悩むときもあります。

山口：だからこそ、定期的に通ってもらう必要があるのではないでしょうか。1回の診療では、1番伝えるべきことだけをお伝えすればいいんです。また3ヶ月後に会うときは患者さんも変化しているし、白井さんが伝えられることも増えているはずですしね。

白井：なるほど。

岡部：患者さんも自分も常に成長し続けられる。だからメインテナンスって楽しいんですよね！

歯科衛生士＝健康を支えるパートナー。そのことをアピールし続けていきます

今寺：近い将来、日本でも歯科衛生士の認知度がもっと高まってほしいです。北欧やアメリカでは、この職業に対するイメージが全く違うじゃないですか。

同僚が若い頃、外国人の方に「歯科衛生士なの？　すごいね！」って言われたそうです。その話を聞いたときは「日本ではそんなふうに思われてないのになあ」って残念に感じました。10年後には、日本でもそう言われることがあたり前になっていたらいいなと思います。

岡部：もちろん歯科衛生士という職業自体の認知度が上がることも大切ですが、これからはその上を目指さなければならないと私は感じますよ。知名度だけじゃなくて、健康を支える職業だということを世間の人にもっとわかっていただきたいものです。

今寺：そういえば以前、定期的に診ている患者さんの口腔内に気になる病変を発見したことがありました。それをお伝えしたことがきっかけで、検査をしたら口腔癌が見つかったんです。そのときに歯科衛生士の責任の重大さと、変化を見て伝えていくことの大切さを実感しましたね。

山口：だからこそ、メインテナンスの時間は気が抜けないですよね。いつも口腔内や全身の様子を、重箱の隅をつつくような感じで見ています。〝患者さんをまるごと診る〟という意識は、常に持ち続けていきたいですね。そうすることで、患者さんにとって歯科衛生士がより頼れる存在になっていくはずですから。

「歯科衛生士になってよかった」心からそう思います！

白井：「あなたに出会ってよかった」って言われると、歯科衛生士になれた喜びを感じます。やりがいを持って働けている自分は、幸せだなぁって。

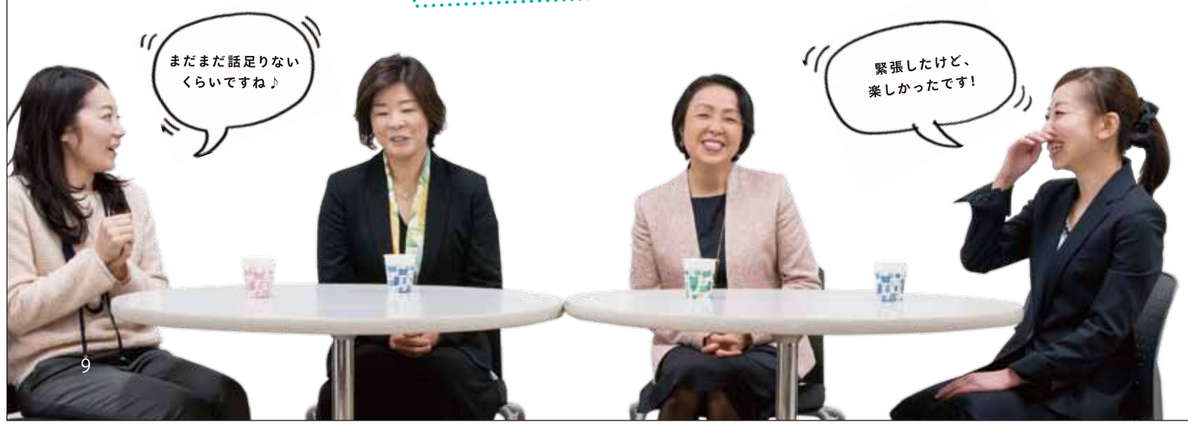
今寺：そうですよね。私も年々、意味のある仕事だなぁと実感しています。自分がやればやるだけ患者さんの意識も変わっていくし、社会全体が変わっていく感じがするじゃないですか。ずっとやっていたいと思える仕事を選べて、本当によかったです。

岡部：私は自分が元気でいられることがありがたいかな。仕事のときは〝歯科衛生士としての自分スイッチ〟が入るんですよね。母親でもなく、患者さんの友人でもなく、プロフェッショナルな仕事をイキイキとしていられる女性として。

歯科衛生士は、今以上にできることが増えていく仕事です。そこに携わって、自分自身も成長していけるのをすごく楽しみしています。

山口：専門職として、これからますます歯科衛生士が必要とされる時代がくると思います。ということは、周りからもプロフェッショナルとして見られるということですよね。だから、患者さんの前に立つときはシャンと背筋を伸ばして頑張っていきたいと思います。

トークが盛り上がるなか、座談会は終了！



DH 座談会

DH 座談会

座談会を終えて……

それぞれ新たな想いを胸に、日々の診療で患者さんと向かい合う4名。
座談会を終えて、どんな気持ちの変化があったのでしょうか？

山口千代子さん

みなさん、若くてもしっかりした考えを持ってらっしゃるなぁと感心しました。

日本では、スウェーデンのように歯科衛生士が独立するということは難しいですよね。でも、患者さんのQOL向上のためにできることはたくさんあります。ですから、この体が動く限り患者さんと関わっていたいです。そのためにもジムに通って、大好きなEXILEのコンサートに行ったりして！　元気よく日々を過ごしたいです。

岡部葉子さん

座談会に参加して、勇気をいただきました。自分の医院だけじゃなくて、世の中の歯科医院が予防を広めるために動いていることがわかりましたから。そのなかで、歯科衛生士が予防のプロとして存在をしっかりとアピールしているのもうれしく感じます。

そして、実際に患者さんが求めてくれているじゃないですか。その声に応えられるよう、これからも歯科衛生士として働き続けます！

今寺麻友さん

先輩方の話を聞いて、まず衝撃を受けました。何年経っても歯科衛生士という職業は学び続けて、悩み続けるものなんだって。今までは、あと10年経てばスペシャリストになれると夢見ていたんですよね。

でも年数を追うごとに新たな疑問が生まれて、勉強し続けていかないといけないのだとわかりました。だからこそ、この仕事は楽しいんだっていうことにも改めて気づけてよかったです。

白井初貴さん

実は、座談会に行く前はすごく緊張していたんです（笑）。でもモチベーション高い意見交換に参加できて、帰るころには興奮に変わっていました。

先輩方の話を聞いて、普段自分が不安に思うことや悩みをみなさん抱えていたんだということにホッとしましたね。そして、それを乗り越えてきたという話を聞いて自信が持てました。私も、もっと上を目指して成長していきたいと思います。

みなさん、ありがとうございました！